

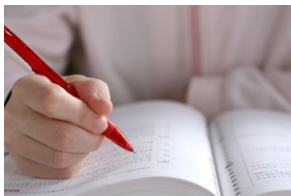


2018. 2.9

鈴木 恵一



## 学びを深めるために



来週から後期末考査ですね。(2月15日(木)～22日(木))

あなたはこの1年間、どのような気持ちで勉強と向き合ってきたでしょう。定期考査を最終目標に学んできたわけではないはずで

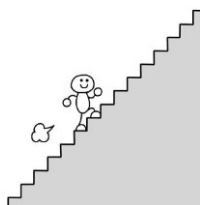
たとえば、入学試験、入社試験、各種検定試験の場合は、合否を決めるために

受験者に<sup>ゆうれつ</sup>優劣・順位をつけます。しかし、定期考査は意味合いが異なります。授業で学んだことをテストで点検し、不足する部分を<sup>はあく おぎな</sup>把握し補うことが本来の目的です。



### ◆学び方を学ぶ

学び方のスタイルには、“**教えられて学ぶこと**”と、自ら探求し“**課題発見(設定)して学ぶこと**”があります。よく、能動的学び(アクティブ・ラーニング)と受動的学び(パッシブ・ラーニング)という言い方をしますが、どちらも学習者自身が主体的・直接的に関わるという点では同じです。“教わる”という行為を単純に受動的だからダメと断じることはできません。教わるには<sup>けいちよう</sup>傾聴力、理解力、観察力、記憶力、想像力、思考力などが求められます。もちろん暗記だけに頼った学習では時間の経過と共に記憶は<sup>うす</sup>薄れていきます。学校の先生が教えてくれている最も重要なところは「**学び方**」です。



問題解決の方法、設問との向き合い方、言葉、文脈のとらえ方を学ぶことです。解を求めるためにどんな考え方をすればよいのか。そしてそこから一步踏み込んで自ら課題を発見し、自ら解決に取り組んだとき、人はより学びを深めることができるのです。教科・科目によっては得意、不得意もあるでしょう。しかし、どうでもよい教科・科目というものはひとつもありません。それぞれ学び方が異なり、多面的な方法で脳を<sup>きた</sup>鍛えてくれるのです。私たちは、<sup>しょうがい</sup>生涯にわたって学び続け発見し続けなければいけません。学び取ったことを知識にとどめず、知恵へと<sup>しんか</sup>深化させなければなりません。今後も努力しましょう。